



TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部
国際センター ニュースレター

Vol. 25 Winter, 2015



1. Hello from All Corners of the World!

初めに紹介するのは、現在アメリカ・ペンシルバニア州にあるEdinboro Universityに留学中の卒業生 林 友理恵さんです。林さんは、在学中にアメリカのミシシッピ大学に2学期間の交換留学へ行き、帰国後色々悩んだ末、自分の夢を叶えるべくアメリカの大学への編入という道を選びました。人生の選択は難しいものですが、やりたいと思えるものに出会えたら、そこに向かってひたすら努力する。そんなチャレンジ精神溢れる林さんです。

林 友理恵 (2014年国際学部卒業)

私 が大学を卒業して、早一年が経とうとしています。今年24歳になる私と同じ歳の人たちは、いったい何をしているのでしょうか。家庭を持っている人、仕事に熱中している人、ただ毎日を何となく過ごしている人など、色々だと思います。日本では大学を卒業イコール就職というイメージがあります。就職するといっても、日本にはたくさんの職種があり、企業の規模も様々で、一言に就職といってもなかなか決めきれないのが現実です。ましてや自分の好きなことを見つけ、それに関わる仕事に就くことは夢のようなものなのです。私たち若い世代にとって、今の日本で自分の未来を切り開いていくことはとても大変です。

私はたくさんの大人たちの期待を裏切り、大学4年次生の夏、美術館で働くという夢を実現させるために、ある決心をしました。日本でも勉強をしようと思えば可能なのですが、資格取得後も海外での就労経験が必要なため、アメリカの大学に進学することを決めました。しかし、アメリカの大学といってもその数は限りなく多く、自分の勉強したい分野のプログラムを持つ大学を探すにも一苦労しました。また、両親を説得することも大変でしたし、勉強して将来何に繋がるのか、卒業して安定した職業につけるのか、奨学金は返していけるのかなど、不安なことも山積みでした。それでも、無事にアメリカのペンシルバニア州にあるエディンボロ大学芸術学部への進学が決まり、2014年8月に渡米しました。

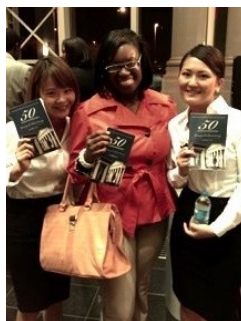
今、こちらで2学期目に入りました。こちらでの大学生活はどんなものなのか。日本の大学とはかなり違い、毎日のように宿題や課題に追われています。私の場合、先学期は6つの授業を履修していましたが、朝6時に起き勉強、8時から授業、



ミシシッピ大学の留学生たちと(本人前列左端)

授業が終わり次第朝食、11時から2つめの授業、昼食後に3つめの授業。学校から帰ってきてからは宿題や次の日の授業の予習に追われ、結局寝るのは午前2時、3時。これが典型的な1日のスケジュールでした。もちろん授業はすべて英語です。ということは日本語で学ぶのも難しい科目、例えば心理学、社会学、経済学などもすべて英語で勉強しなければなりません。またアメリカの大学では、人前で発言する機会が多く、ただ授業に出てノートをとっていればいい日本の大学とは話が違います。人並みに授業についていくために、授業が終わったらずい先生のところに行って、授業の内容が不確かなところや提出物などについて確認をします。またプレゼンをしなければいけないときは、クラスのサイズや内容によってどのような発表方法が効果的かを考えることも必要です。完璧なパワーポイントを淡々とするよりも、楽しい紙芝居形式やワークボードを使った方がみんなの評判が良いこともあります。

このように、色々なことに追われる毎日を過ごしていますが、自分がどうしても勉強したかったことに取り組む時間はとても充実していて、忙しいながらも幸せをかみしめています。前回アメリカに留学していたときは、自分もアメリカ人のように自由で、フランクになりたいと思っていましたが、今思う



ミシシッピ大学留学中に参加していたゴスペルクラブのコンサートで(本人右端)

目次:

Hello from All Corners of the World! 1-3

ホームビジットプログラム: Ann-Cathrin Gauweiler 4

私のオススメ in Australia: Kasumi Mitsuno 4



とそれは私が日本人であるという個性を消して、よりアメリカ人に近づこうとしていたように思います。しかし、今は日本人ならではの感性を残しつつ、日本の良さを知り、それを海外に伝えることが大切だと感じています。また、自分の人生において新たな視野や道を開拓していくことに喜びを感じています。私のアメリカの大学進学という選択が正しかったのかどうか、今はまだわかりませんが、自分に何ができるかを模索しながら、前に進んでいけたらと思います。

大学卒業後からでも、社会人になってからでも人生の方向転換は遅くありません。しかし、どんな場合でも、人と違う道を歩くということは、それなりの責任感や心構えを持たなければいけません。また、夢を追いかけることは、時にはリスクが伴います。そのリスクに自分の人生をかける価値があると思うなら、どんなことがあっても諦めず頑張り続けてください。私の経験の一端が、頑張る後輩の背中を押す、一押しになればいいなと思います。



Edinboro Universityの友人たちと
(本人中央)

次は、オランダ・フロンティス応用科学大学に1学期間交換留学をした大川 耀君です。大川君は、国際学部留学でニュージーランド・ワイカト大学へ1学期間の留学、私費で短期のフィリピン留学、CETルームシェアやI-Chat LoungeのI-Pop Bandへの参加など、学内外で様々なプログラムに参加してきました。好奇心旺盛で、逆境を力に変えることのできる強さを持った学生です。高校まではラグビー筋、勉強とは無縁の生活を送って来た大川君ですが、大学生活4年間で素晴らしい人間力を身に付け、それが就職活動でも高く評価されました。学生生活は長いようで短いです。大川君の体験は、何があっても負けない、強い心を持って前進することの大切さを教えてくれます。

よう 大川 耀 (国際学部4年次生)

今、自分自身の大学生活を振り返ってみると、たくさんの事が走馬灯のように浮かんできます。すべてのことをまるで昨日の事だったかのように思い出すことができ、本当に充実した学生生活を送れたと感じています。

高校時代の英語のテストは8点、大学で最初に受けたTOEICは260点。これで焦らない人はいないと思います。でも、私は4年間を通して常に自分のスタイルを貫き、将来の事はあまり考えずに、思い立ったことをすぐに行動に移すという自由な大学生活を送りました。そして、気が付けば、英語ができなかった自分が、英語で話をし、異文化を理解できるようになっていたのですから、人生何が起るかわかりません。

大学生活で異文化を知るきっかけになったのは、アメリカからの留学生と共同生活をするCETルームシェアプログラムでした。半年間の留学生とのルームシェアのおかげで、留学で学べることは語学だけだと思っていた自分の考えが180度変わりました。ある時、留学生たちと一緒に泉大津市の地車祭りに参加しました。彼らは日本の上下関係や感謝の仕方などを見て、

何の躊躇もなくそれを真似し、限られた時間だったにもかかわらず、現地の地車の引手たちと友情関係を築き上げていくのを目の当たりにしました。驚きとともに、彼らが日本語を使い、すんなりと日本の社会に溶け込んでいく姿を見て、これが留学をする本当の意味ではないかと自分なりに感じました。彼らから学んだことはコミュニケーションの方法は人により様々であること、語学力はコミュニケーションをする一つのツールに過ぎないこと、そして人との関係は語学力がすべてではないという事でした。そんな彼らの背中を見ていて、いつの間にか自分も異文化を経験しに世界に飛び出したいという気持ちが高まりました。

在学中、私はニュージーランド(国際学部留学)とオランダ(交換留学)に留学するチャンスに恵まれました。まず、2年次の後期に、ニュージーランドで4ヶ月間英語を学びました。現地の人たちと流暢に英語で会話するほど英語ができなかった自分は、どうにか英語を話す機会を作ろうと色々考えました。高校時代にラグビー部に所属していた経験があったので、現地のワイカト大学のラグビーチームに参加し、それをきっかけにたくさんの友人ができ、英語力も一気に伸びました。ニュージーランド留学を通して、外国に行ったとしても、自分で学ぶ環境を作らなければ何にもならないと気づきました。

次に、3年次で交換留学を目指しましたが、TOEICが445点で、わずかに英語圏への留学基準を満たせず、とても悔しい思いをしました。でも、どうしても諦めることができず、就職活動が遅れるリスクを承知で、4年次での留学を目指しました。努力が実って、半年でTOEICの点数は600点を超え、様々な国から



(上) ニュージーランドのラグビーチーム (本人左から2人目) (下) オランダで留学生仲間たちと (本人左から2人目)

の留学生と交流できるオランダへの留学が決まりました。オランダでは勉強も遊びもすべて楽しむことができ、今まで生きてきた中で一番自分が成長していると実感できる環境に身を置くことができました。また、オランダでは、自分がそれまでたくさんの人たちとの出会いの中で学んだコミュニケーションスキルを最大限に活かすことができ、さらにそれが外国人留学生に通用することもわかりました。結果的にリスクを背負っても留学して本当に良かったと思っています。

留学から帰国後、他の学生より数か月遅れで就職活動を開始したため、絶対に苦労すると思っていましたが、それまでの学生生活で色々なことに挑戦してきたおかげで、面接での話題に困ることがありませんでした。逆に、面接は自分の経験話をせる機会だから楽しいとさえ思えました。結果、予想に反し



CETの留学生たちと地元の祭りに参加 (本人左端)



て、活動開始から3週間ほどで、希望していた会社2社から内定をもらいました。この成功から一つ一つの事に真剣に取り組む、やり遂げることに意味があり、それが後に自分の役に立つのだと心底思えました。

たいていの人たちは、新しいことを勉強した

り、始めたりするときに、それが一体何の役に立つのかわからないから挑戦しないと考えると思います。でも、私は自分の経験から、それは間違いであり、挑戦することに意味があるのだと胸を張って言うことができます。また、大学生活は自分の得意なことを見つける自

分探しの旅だと思うのです。今、新しいことに挑戦しようと思っているなら、ぜひやってみてください。”You have nothing to lose, so give it a try. (失うものは何もない。だからやってみよう。)”の言葉を自分に言い聞かせ、自分探しの旅に出てみてください！

次は、韓国のペジェ大学に2学期間の交換留学をした細川 健太君です。数年前に交換留学の春出発募集を開始しましたが、春出発で2学期間の留学をしたのは細川君が初めてです。高校生の頃から韓国語の勉強を始めていた細川君は、ペジェ大学留学前にすでにハングル能力検定3級を取得していました。その語学力が買われて、ペジェ大学からの推薦を受けて、韓国でインターンシップをするという貴重な経験をして帰国しました。自信がなくても思い切って大学の外に出て、他の人にはできない経験、体験をする。自分だけのストーリーのある留学をする。これが今後はもっと必要になってくるのかもしれません。

細川 健太（国際学部2年次生）



インターンシップ先のイベントに参加

韓国に留学したい！これが大学入学当初からの自分の夢でした。きっかけは、高校3年生の夏に見たK-POPグループでした。最初は独学で韓国語のハングル文字を書いたり読んだりしていましたが、それでは飽き足らず、韓国語が話せるようになりたいという一心で韓国語教室に通って文法も勉強しました。しかし、自分の中で、日本で勉強するだけではなく、大学にある交換留学制度を使って、実際に現地に行って韓国語を話したり聞いたり、また色々な経験をした方が、韓国語の上達に繋がるのではないかと考え、留学を目指しました。

大学2年次で希望していた韓国留学が実現し、大田（テジョン）市にあるペジェ大学に留学しました。ペジェ大学には日本学科があるため、現地到着後は、その学科の学生たちが様々な面でサポートしてくれました。生活していく上で必要なことを教えてくれたり、日本学科の学生たちと交流できるようなイベントを考えてくれたり、とてもお世話になりました。また、ペジェ大学韓国語教育院では、留学生向けの韓国語授業を開講しており、授業だけでなく留学生が一緒にリング狩りに行ったり、雪の日以外で遊んだりするなど、みんなで楽しみながら勉強できる環境が整っていました。

ここまでは普通の留学ですが、私の留学には他の人になかった経験が2つありました。まず1つ目は韓国で自分が好きな野球ができたことです。ペジェ大学の日本人教授の紹介で草野球チームに参加し、毎週末、野球に明け暮れていました。チームのメンバーは社会人の人がほとんどで、最初はおじさんたちの話す韓国語が聞き取れなくて困ることもありましたが、野球をする時も、野球の後に食事をする時も、頑張って韓国語だけでコミュニケーションを取りました。韓国語が堪能でなくても、野球という共通の趣味があったので、上手く意思疎通が出来たのではないかと思います。さすがに気温の低い12月に野球をするのは厳しかったですが、留学が終わる最後までチームでプレーをしました。

もう一つは、学外のインターンシップです。夏休みの間に日本に帰ろうかどうしようかと悩んでいた時に、ペジェ大学の先生からインターンの募集があると聞き、インターンシップをするのは自分にとって良い経験になると考え、思い切って応募しました。大田広域市国際交流センターでインターンをしたのですが、初めは職員の人たちが話す韓国語がどういう意味が分からないことが多くあり、自分の語学力の無さを痛感する日々が続きました。インターン先での主な業務は、韓国語から日本語への翻訳でした。短い文章でも、初めはかなり時間がかかっていましたが、慣れてくるとそれもういぶん早くできるようになりました。また、出来ないなりに毎日できるだけ韓国語でコミュニケーションを取るようになれば、少しは会話が伸びるのではないかと考え、必死に周りの人たちとしゃべりました。このインターンを通して、自分がいたいと思える環境に身を置き、必死で学び、色々なことを体験することが自分自身を成長させるのだと感じました。結局、このインターンも夏休み終了後も継続することができ、帰国までの半年間取り組むことができました。このインターンの経験は、大変なこともありましたが、留学生活の

中で一番思い出深いものになりました。

目標にしていた韓国留学を終えて、今思うのは、さらに韓国語を勉強して、将来の事に活かせるレベルまで語学力を向上させたいということです。これから国際学部の学部留学プログラムを使って、もう一度ペジェ大学に留学しようと考えています。そして、留学を通して新たな目標がもう一つできました。それは英語の修得です。留学中、英語ができれば良いと思うことが多々ありました。韓国語と英語、2カ国語の修得。これが次なる目標です。

皆さんは目標を持って大学生活を送っていますか？目標を一つ一つ達成する努力をすること。これが大学生活を充実させる、意味あるものにする秘訣ではないでしょうか。私は次の目標に向けてすでにスタートを切りました。やりたいと思った時にスタートしてください。そうすれば道は開けると思います。



(上) 野球チームの仲間たちと(本人左端)
(下) ペジェ大学語学堂のクラスメートたち(本人前列中央)



2. ホームビジットプログラム 2014-2015

これは、アパートに滞在している海外からの留学生向けに実施しているホームビジット（家庭訪問）のプログラムです。アパートで生活していると日本の家庭生活を体験することができないため、2013年度より規模を拡大して実施をしています。実施するためには多くのファミリーにもご協力いただくことが必要不可欠なため、学外のファミリーのみならず、学内の教職員や学生にも協力をしてもらい、本年は22家族が25名の留学生の受入れをしてくださっています。

今回ご紹介するのは、ドイツのトリア大学からの留学生Ann-Cathrin Gauweiler（アニー）さんがファミリーのお家で体験した日本のお正月です。彼女のファミリーは、本学キャリアセンターの福西さん一家です。今回、年末年始の休暇中、アニーに様々な文化体験の場を提供してくれました。先日、アニーのご両親がドイツから来日された折にもファミリー同士の交流を深められたと聞きました。まさにアニーのJapanese Familyです。

『日本人家族のお正月の過ごし方』 Ann-Cathrin Gauweiler（ドイツ・トリア大学）



ホームビジットファミリーの福西さん宅で（後方左から福西さん、奥様の美樹さん、前方左から美樹さんのおばあ様、アニー）

の夏の終わりに、私はこの家族と知り合いました。私にお正月の予定がないと知った福西さん家族は、年末年始と一緒に過ごそうと誘ってくれました。お正月の前日からお家に行き、ホームビジットのお母さんと一緒に正月料理を作りました。お母さんと一緒に料理をするのはとても面白くて楽しかったです。31日には、他の親戚の人たちが来て、みんなで一緒にお餅を作りました。おばあちゃんが私のことを色々褒めてくれている時、ホームビジットのお父さんが出来立てのお餅をつまみ食いしていると気付いて、「ダメ～！」と言ったので、それを見ていた息子さんと私は大笑いしました。夜になって、お父さんの弟さんとお母さんが帰ったので、私は福西家のみんなとテレビを見ながら、年が明けるのを待ちました。

元日の朝、私達は近くの神社に初詣に行き、焚き火で温まったりしました。また、私と家族の男性陣だけで近くの山に登り、2015年の始まりの日の出を見ました。本当にきれいでした。登るのはちょっと大変でしたが、日の出を見られたのは幸せでした。



左から初詣、餅作り、おせち料理

元旦は、年末に作ったお正月の美味しい食べ物を家族や親戚の人たちと一緒に食べました。おばあちゃんたちの言葉は、理解するのがちょっと難しかったですが、みんな優しい人たちでした。午後からはみんなでカルタをしたり、テレビを見たり、たくさん笑って楽しく過ごしました。また、数日後も私達は他の神社に初詣に行き、たくさん美味しいものを食べ、思い出になるような写真をたくさん撮りました。

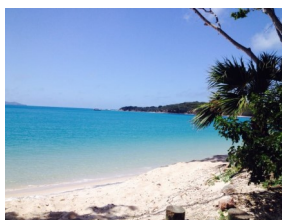
私はこんな素晴らしい日本のお正月を経験する機会をくれたホームビジットファミリーに、心からありがとうございます。

（本人手記）



私のおススメ in Australia～Kasumi Mitsuno

オーストラリアといえば、青くて綺麗な海のイメージですが、私が留学していたCQ大学の近くに、グレートバリアリーフの綺麗な海を楽しむには絶好の場所Keppel Islandという島があります。大学のあるロックハンプトンから車かバスで3、40分、さらにフェリーに乗り換え30分、約1時間弱で島に到着します。Keppel Islandの海水はとっても綺麗な青色で、透き通っているので、普通に泳ぐだけでも楽しいですが、シュノーケリングやダイビングをするのにも最適です。またKeppel Islandには、海を眺めながら屋外で食事のできる大きなレストランや宿泊施設もあります。夜には空から降ってきそうな満天の星を見ることがので、泊りがけで行くとより一層楽しむことができます。オーストラリアのクイーンズランド州を訪れる際は、ぜひKeppel Islandに行って大自然に癒されてみてください！（国際学部2年次生 オーストラリア・CQ大学交換留学）



★ホストファミリーとホームビジットファミリーを 随時募集しています。

興味をお持ちのファミリーは、詳細情報をお送りしますので、inoffice@ogu.ac.jpまでご連絡ください。

大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

TEL: 06-6381-8434（代表）

FAX: 06-6381-8499

Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>